

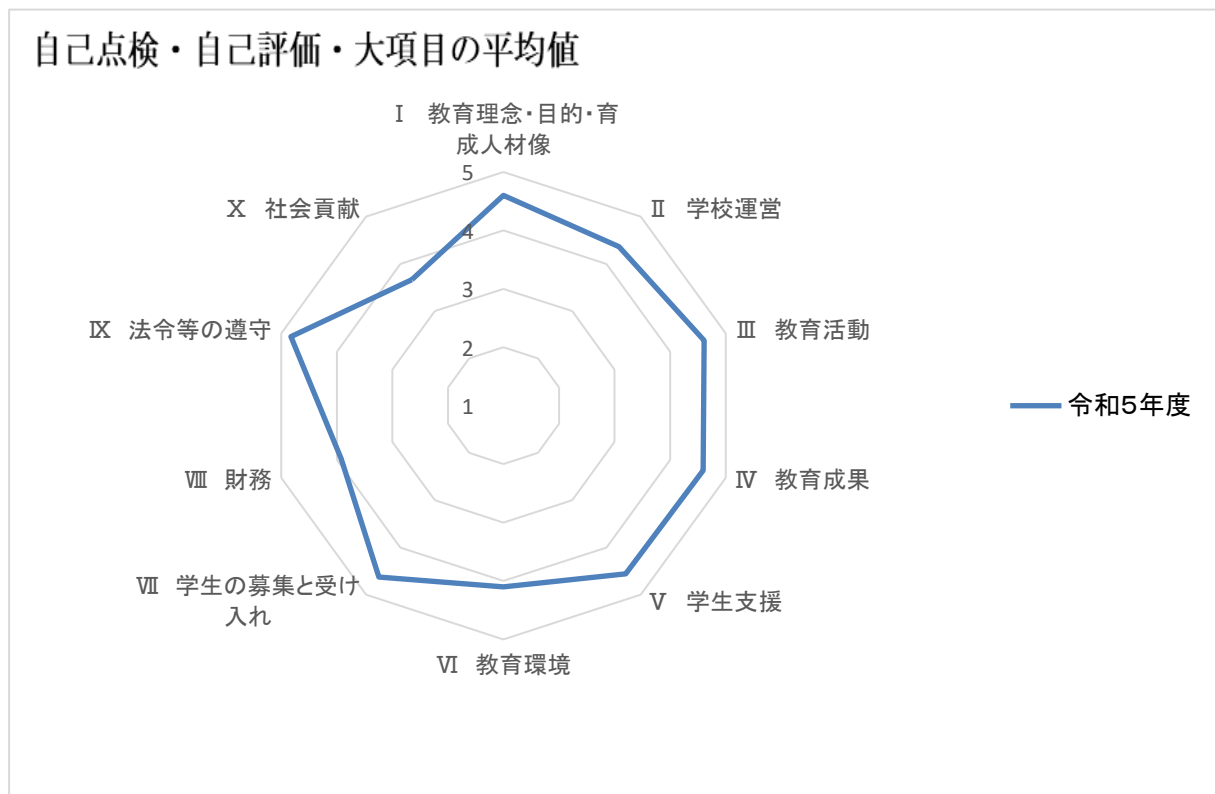
鹿児島県医療法人協会立看護専門学校自己点検自己評価 ～令和5年度まとめ～

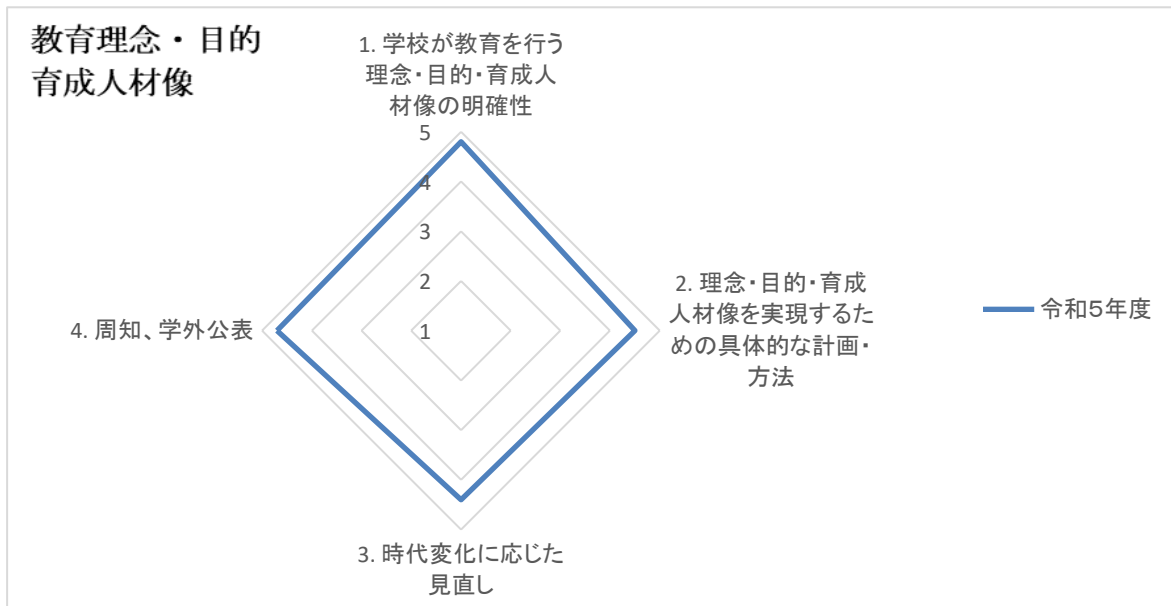
1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

本校では、令和4年度の学校自己点検自己評価結果を受け、令和5年度の重点目標に「学生支援の向上」と「職員の自己研鑽」を継続し掲げた。新カリキュラム開始から2年目となり、新カリキュラム旧カリキュラムの並行を意識し、教職員間・学校関係者との共有連携を図ること、学生の自己学習能力を高めること、社会人基礎力を高めることに努めた。年度末に活動目標に沿った各自の教育実践や業務を振り返るとともに、学校評価を実施し評価報告書としてまとめた。

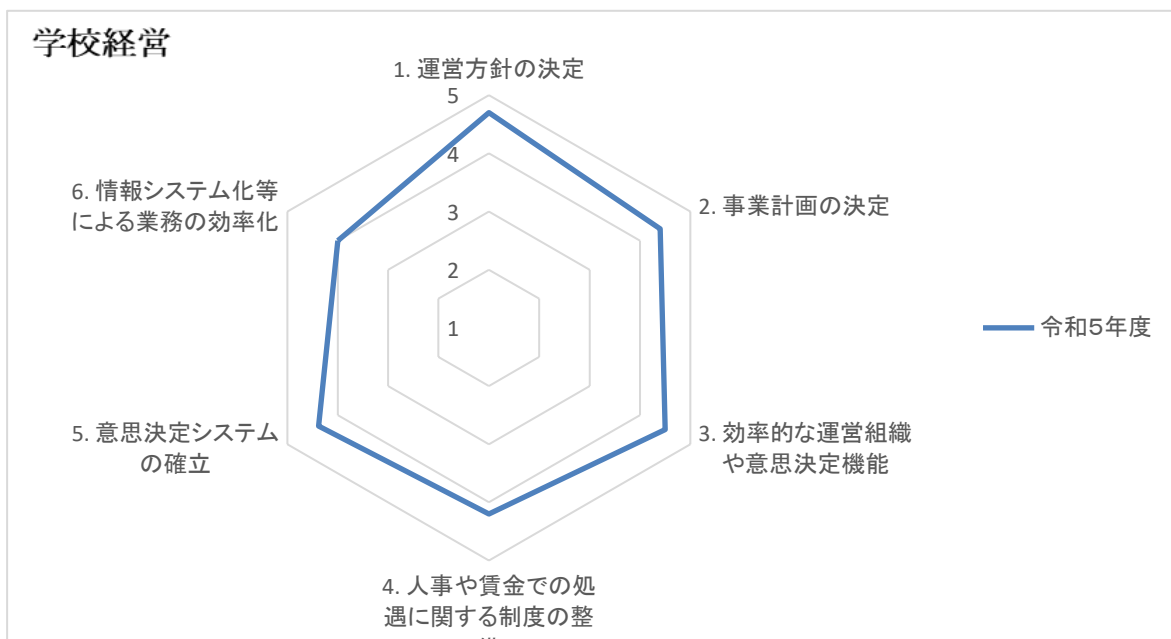
2. 自己点検・自己評価結果（令和5年度）

以下は大項目（Ⅰ～Ⅹ）毎にその平均値を図に示した。次に、各領域について評価された数値を点検項目別に集計し平均値を出し、振り返りを行った。その結果「財務」が3.9「社会貢献」が3.7以外は4以上の高い結果であった。





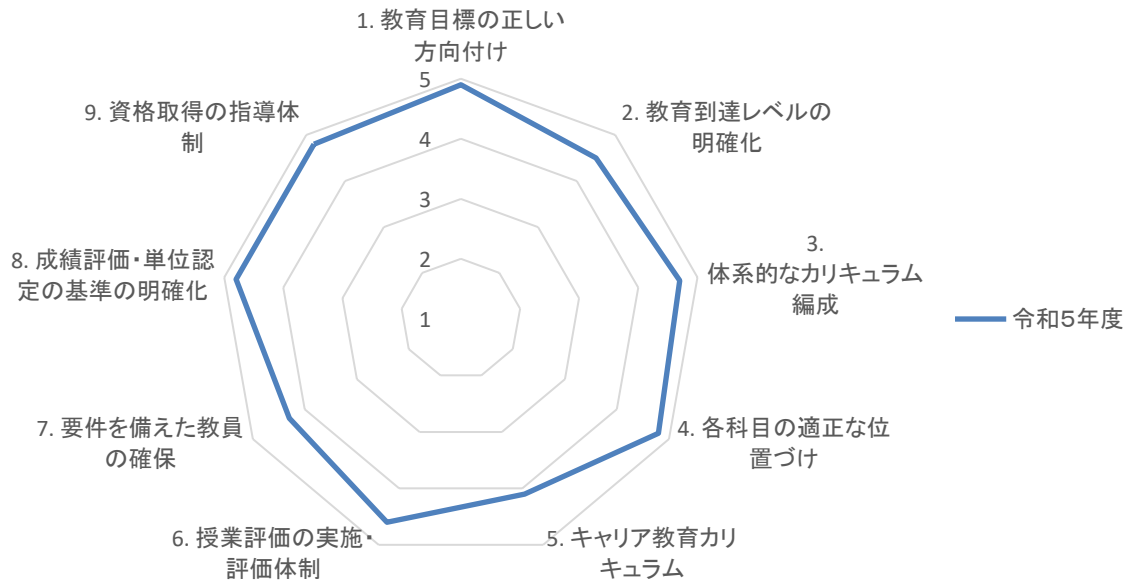
教育理念・目的・育成人材像については、会議等を通してカリキュラムの理解や学生の現状を共有し、社会状況の変化や学生の現実像をふまえて当校の理念から広がる教育活動を検討した。これらによって学校が目指す「地域で生活するすべての人を対象に看護を実践し活躍できる能力を育成すること」や具体的計画・方法が教職員に浸透した。



本校の設置主体である一般社団法人鹿児島県医療法人協会の理念は地域に根差した看護職人材育成であり、看護師養成所指定規則に則り学校運営方針、組織図、年間事業計画を定め運営している。

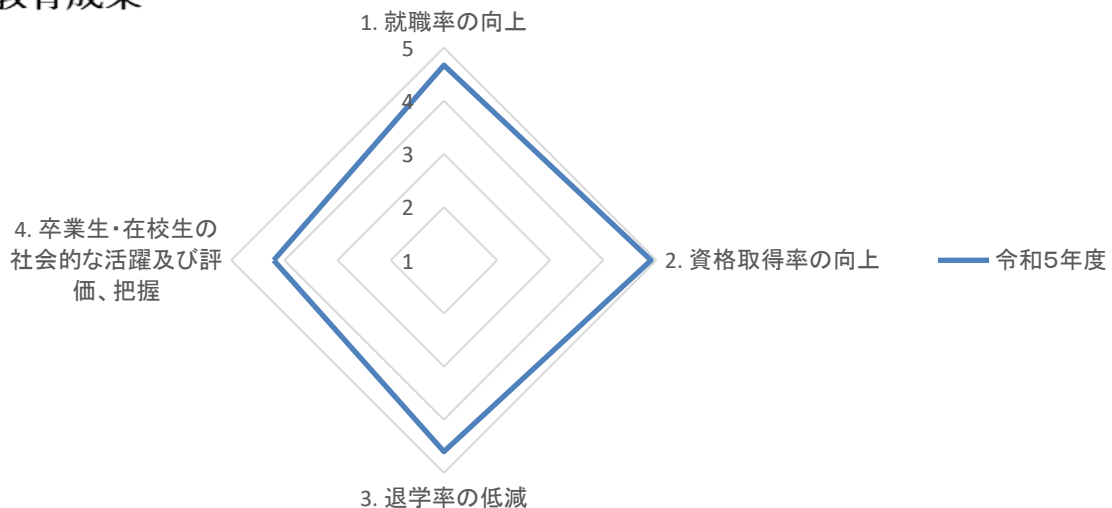
新型コロナウイルス感染症が5類に移行した年であったが、実習現場の状況や実際の感染状況を踏まえながら教員間で意思決定し、さらに学校運営会議・職員会議・教務会議・各係り会議等の定期的開催と、場や時間を工夫した小会議を行い学校経営の推進を図った。その結果昨年と同様の高い評価となった。

教育活動



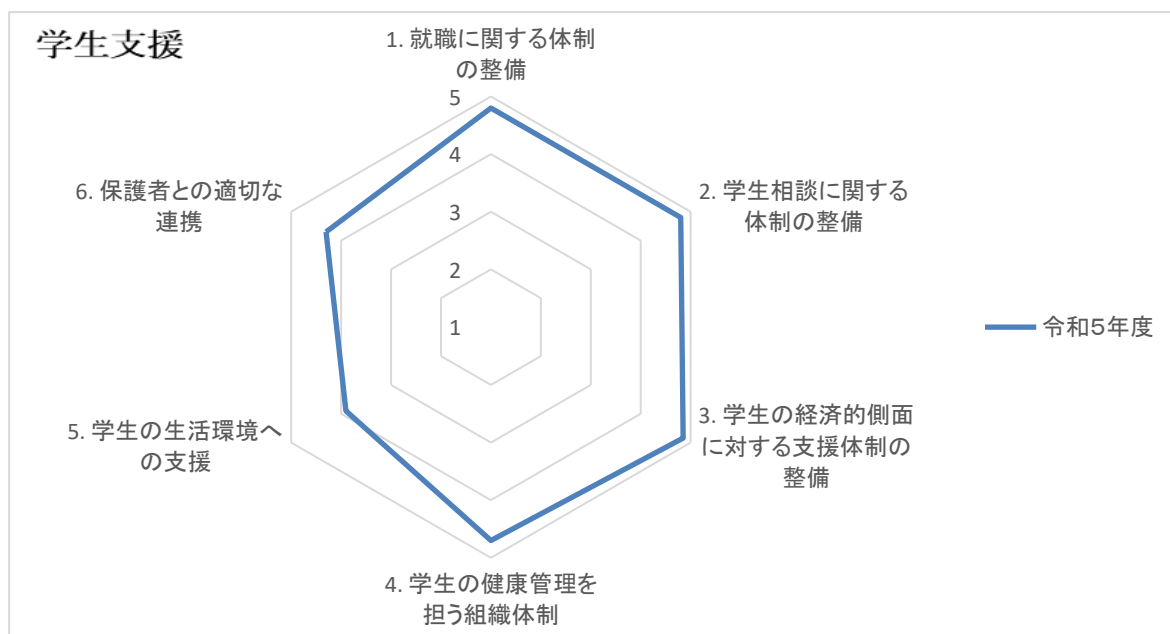
教育活動は前年度に続き安定して高い数値を示した。新カリキュラム2年目となり教員間でミーティングを重ね「教育目標の正しい方向付け」「体系的なカリキュラム編成」「各科目の適正な位置づけ」なども数値が増加した。令和6年度は3学年とも新カリキュラムになる。これからも教員間でカリキュラムや授業活動の検討、共有を図りながら教育活動の質向上に努める。また、令和6年度には鹿児島県で専任教員養成講習会が開かれるので、資格要件を満たせるよう受講をすすめている。

教育成果



当校では鹿児島県内就業の卒業生を例年数多く輩出している。毎年4月には医療法人協会の会員病院による説明会を開催し、具体的な看護師の活動やキャリアについてイメージが持てるよう支援している。またカリキュラムや履修規定の丁寧な説明を行い1年次からの学習に対する取り組みが単位習得や看護師国家試験受験要件になること等を説明している。国家試験合格結果を踏まえ、「資格取得率」「就職率向上」の数値は昨年より増加し、本年度の教育成果も高い数値を保てた。

学生の支援として1年次より悩みや進路に関する相談等を細かに対応しているが、進路変更のため複数の退学者があった。退学に至る時間でも本人や保護者との面談等を丁寧に行い、本人が肯定的な自己決定を行えるよう支援してきた。

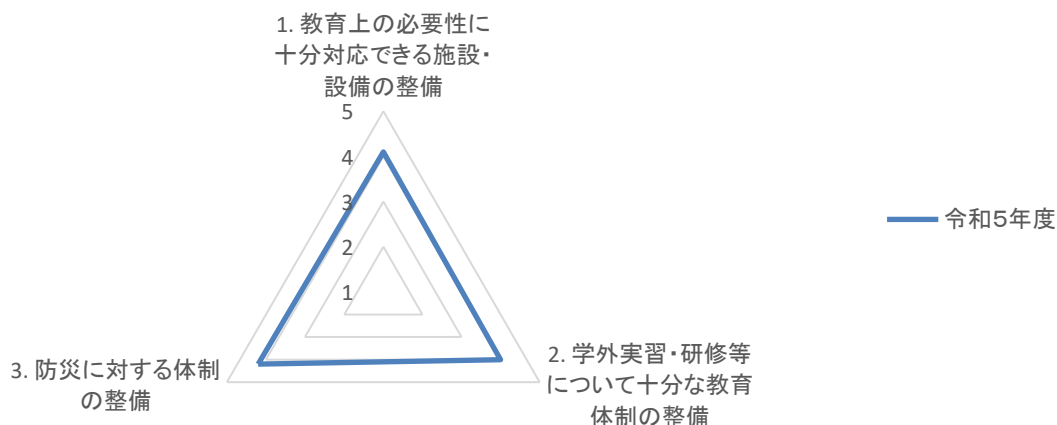


就職に関しては学年担当や進路・就職担当教員を中心に支援する制度も整備されており、学生全員が個々の希望する進路・就職をすることができた。また全学生の面談担当教員を窓口とし、全教員で学生相談を行うとともに、希望する学生にはカウンセラーの支援が受けられる制度を整備している。

学生の経済的支援については専門実践教育訓練金、病院奨学金、鹿児島県修学金、学生支援機構などの支援体制をとっており、多くの学生が活用している。

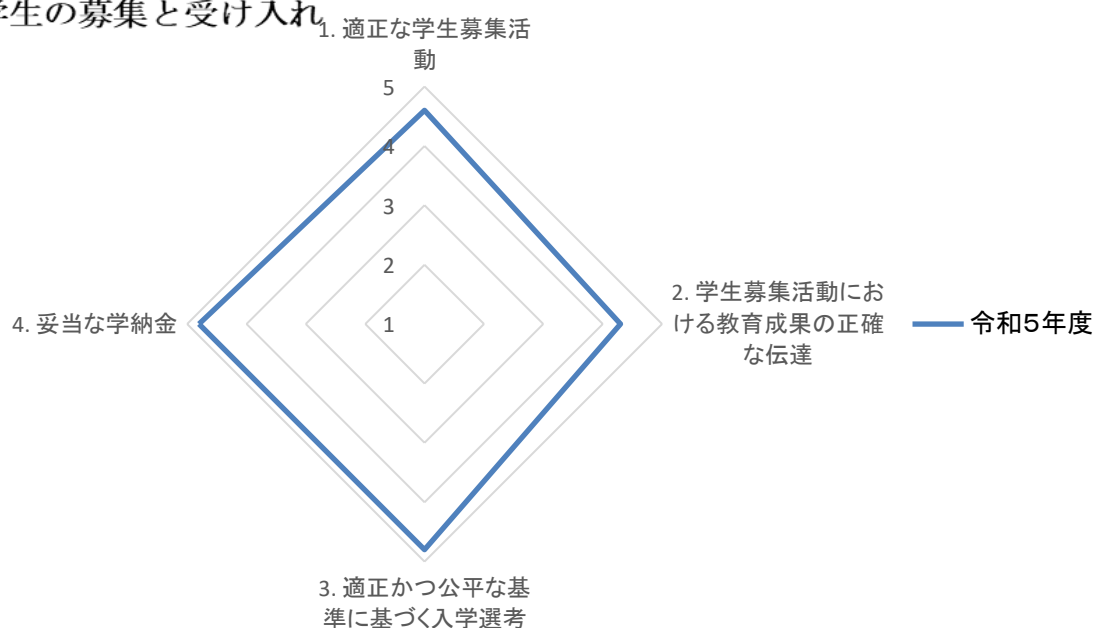
保護者との連携は、保護者説明会だけでなく、成績不振、単位未修得の学生については早目に面談を行い学生の学習を支援した。令和6年度の再履修者については、その原因や対策を検討し、継続的に保護者と連携を取りながら支援していく。

教育環境



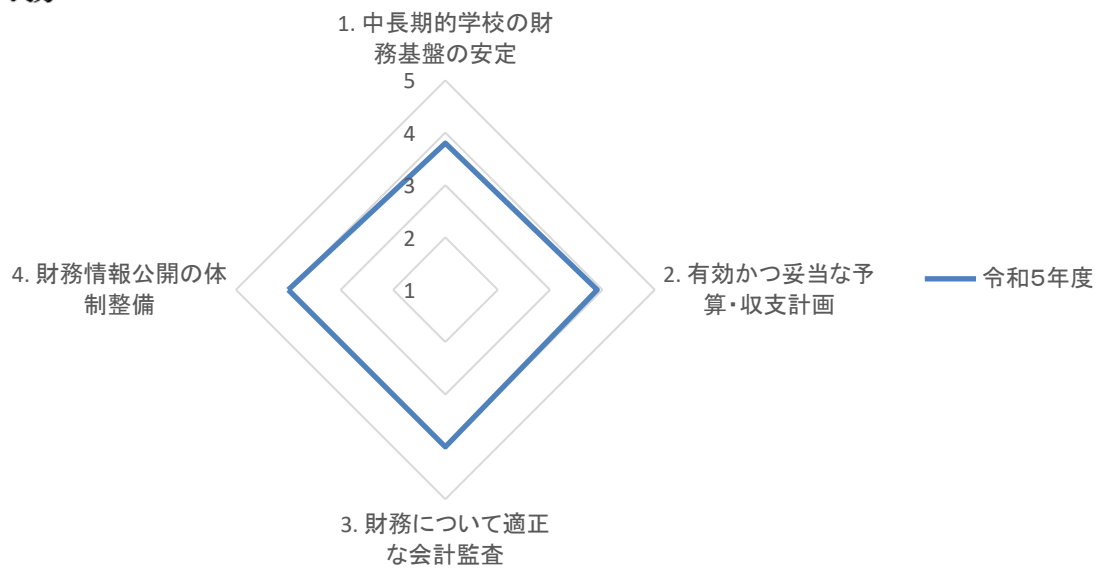
本年度は冷暖房設備の大掛かりな補修工事を行い、学生が学習しやすい環境整備を行うとともに、施設・設備の安全点検を規定通り実施した。実習をはじめ、多職種連携教育の学外実習も関係各所と綿密に連携を図り実施することができた。新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に薄れつつあるが、医療や福祉における現場では感染予防に関する取り決めを学生にも周知し、問題なく実習を行うことができた。

学生の募集と受け入れ



学生募集活動では対面で学校説明会を実施し、当校の特色の説明と共に高校卒業の在学生と高校の先生方が話をできる機会も取り、好評であった。オープンキャンパスも学生の協力を得て体験会や交流会を対面で行い、参加者からは「当校の雰囲気がとてもよい」との声を多くいただいた。高校訪問・進学ガイダンス参加等を継続し、志願者等の問い合わせや見学希望にも積極的に対応した。しかし、受験者数は減少し定員の確保が困難であった。今後は県外受験や当校の周知を促進するなど、学生募集活動の工夫を図り定員確保を目指したい。

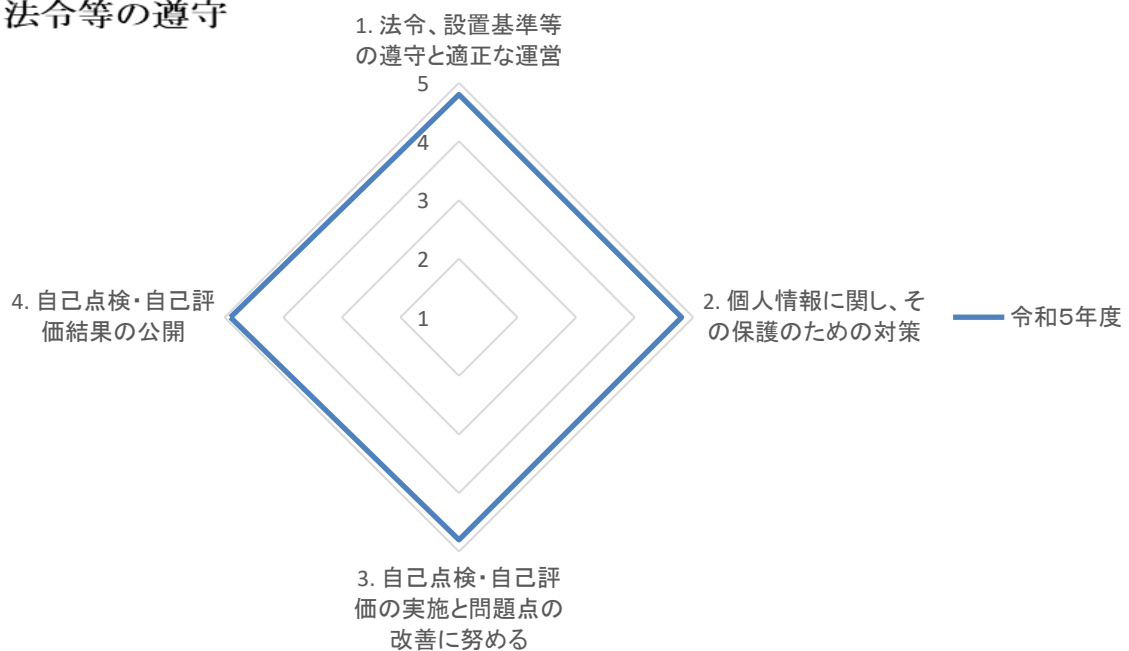
財務



年度予算、中長期計画が、目的・目標に照らして立てられており、計画に従って執行されていることが設置主体の総会で承認された。看護専門学校資金収支計算書、消費収支計算書、収支予算書が明示され、財務状況の監査を受けている。事務窓口では財務情報を公開している。職務分掌や、組織体制も年度ごとに見直されているため、行政機関における経営的立場では健全に管理運営されているといえる。

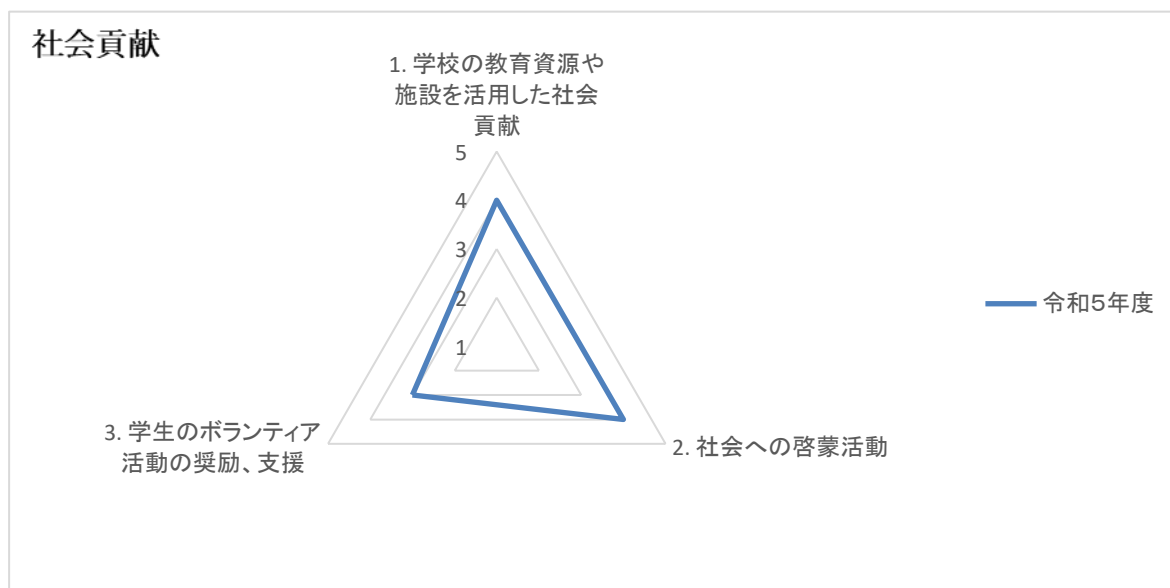
ただ入学試験を終え学生が定員を割り込んでいることから、予算に対し見通しが厳しくなったと考え財務全体の結果が3.9と、昨年より低くなったと考える。

法令等の遵守



看護師養成所指定規則・運営に関する指導ガイドラインや専修学校設置基準等を遵守し適切な運営を行っている。個人情報に関するトラブルは全国で発生しており、当校ではネットポリス講話やオリエンテーション等で複数回説明し、学生の行動化が伴うよう指導を行っている。

学校関係者評価も実施し、寄せられた意見等を学校運営に活かしている。学校自己点検・自己評価も公表している。今後も法令順守の視点で外部との協力を続け学校運営を行っていく。



地域からの要請により指定避難所としていること、中山地域のネットワーク会議に参画することで教育機関、校区と連携・交流を深めている。令和5年度も新型コロナウイルス感染症に関連し学校祭から地域の清掃活動に内容を変更したが、地域の代表者による開会式の挨拶や、清掃活動中の地域住民との会話が学生にも地域とのつながりを感じる良い機会となった。

ボランティア活動については実習における感染予防対策の関係と、流行が収まらなかった状況からまだ奨励することができなかった。そのため「社会貢献」は昨年より結果を下げ3.7となったと考える。社会の現状に合わせながら、今後も学生の地域に向けて発信、関わろうとする力を支援していきたい。

3. まとめ

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類移行になったが、地域での流行は続き、実習にかかわる部分では感染予防対策の遵守と注意がまだ必要な年でもあった。また新カリキュラム開始から2年目であり、新たな科目のスタートに関しては教員全員で検討を重ねながら実施することができた。

学生募集については鹿児島県全体において看護学校の受験生減少がおり、定員確保は令和6年度の大きな課題である。18歳人口減少や就職状況の変化など様々な要因が考えられるが、看護職の魅力と当校の特色をさらに多方面に広め、県外からの受験も可能にするなど検討を行い定員確保につなげていく。